



パンフレット AP022  
1999年 9月作成  
工 業 用

直接染料用フィックス剤

## スーブラフィックスDFC ( S U P R A F I X D F C )

スーブラフィックスDFCは非ホルマリン型直接染料用フィックス剤です。直接染料で染色されたセルロース系繊維染色物の洗濯・汗・水堅牢度等の湿潤堅牢度向上に顕著な効果を発揮します。また、直接染料だけでなく、反応染料濃色染色物に対しても優れた湿潤堅牢度向上効果を発揮します。

### 性 質 ・ 性 状

外 観	淡黄色粉末
成 分	水溶性カチオンポリマー（ポリアミン型）
イ オ ン 性	カチオン
p H	約 7 . 0 （ 1 % 水 溶 液 ）
溶 解 性	6 0 以上の温湯で透明に溶解します。

### 特 徴

- 1 . スーブラフィックスDFCは直接染料染色物の洗濯・水・熱湯・汗堅牢度等の湿潤堅牢度を向上させます。
- 2 . スーブラフィックスDFCはホルマリンを含んでおりません。
- 3 . スーブラフィックスDFCはセルロース / 反応染料濃色染色物の湿潤堅牢度向上にも効果を発揮します。
- 4 . スーブラフィックスDFCはセルロース / 反応染料染色物に対して、NOxガスによる変退色を防止・減少させる効果を有します。

## 使用 方 法

### a) 溶解法

必要量のスープレフィックスDFCに10～20倍量の熱湯（60～80℃）を徐々に加え、均一溶解させた後、ご使用下さい。

### b) 浸漬法

使用する染料の種類・濃度、被染物の種類・形態、処理法により異なりますが、一般的には下記の通りです。

染料濃度	スープレフィックスDFC使用量
淡 色	1～3% o.w.f.
中 濃 色	3～6% o.w.f.

40～60℃ × 15～20分処理した後、水洗・乾燥します。

## 脱フィックス処方

スープレフィックスDFCの脱フィックス処方としては、還元 酸化処理法または酸処理法が効果的です。

### 還元 - 酸化法

#### 還元工程

ハイドロサルファイト	3～5 g/L	90～100℃ × 20～30分
ソーダ灰	1～2 g/L	

#### 酸化工程

過酸化水素（3.5%）	3～5 cc/L	90～100℃ × 20～30分
ソーダ灰	1～2 g/L	
EDTA・4Na	0～1 g/L	
エフカッター800	2～3 g/L	

- ・含金属系染料により染色されている場合や、用水中の金属イオン濃度が高い場合等、金属によるトラブルが生じるおそれのある場合には、酸化処理浴にキレート剤（EDTA・4Na等）を併用して下さい。
- ・酸化処理後、繊維上に過酸化水素が残留しないよう十分に水洗して下さい。（必要に応じて、脱過酸化水素処理を行って下さい。）
- ・被染物の色相、フィックス剤の使用量によっては還元工程でエフカッター800を使用し、酸化工程を省いた一浴一段処理法によっても脱フィックス可能です。



酸化処理法（被処理物の脆化にご注意下さい）

〔	シュウ酸	1 ~ 3 g/L	50 ~ 60	× 20 ~ 30分
	エフカッター 800	2 ~ 3 g/L		

- ・酸性条件下での処理となりますので被処理物の脆化にはご注意ください。
- ・また、繊維上にシュウ酸が残留しないよう十分に水洗して下さい。

## ご 注 意

使用に際しましては充分試験の上ご使用下さい。

## 入 目

20 kg

## 取扱いおよび保管上の注意事項

- 1) 取扱い中は、直接身体に触れないように保護手袋、保護メガネを着用して下さい。
- 2) もし誤って眼や口に入ったときは、直ちに流水でよく洗い流し医師の手当てを受けて下さい。
- 3) 皮膚に直接触れた場合は、直ちに流水でよく洗い流して下さい。もし発疹その他の異常が生じた場合は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- 4) 取扱い後は手洗い、うがいを充分に行って下さい。
- 5) 使用途中の容器は密閉し、異物が入らないようにして下さい。
- 6) 保管に際しては直射日光を避け、冷暗所（5 ~ 35）で保管して下さい。
- 7) 廃棄するときは、産業廃棄物として処理して下さい。

## お 願 い

弊社発行の「製品安全データシート（MSDS）」を用意しております。併せてご活用下さい。